

女性の年金 低すぎる

異常な物価高、社会保障の相次ぐ改悪で、高齢者の暮らしが押しつぶされようとしています。とりわけ女性には受け取る年金額が低く、食べていくのもやっとの状況です。女性の低年金の背景に何があるのでしょうか。

年金格差になり

男女の賃金格差は、そのまま年金の格差となって跳ね返ってきます。2021年度の国民年金(老齢年金)しかない受給権者を見ると、平均月額が5.5万円、納付期間が25年未満で平均月額4万円未満の受給者は男性19.1%に対し、女性は77.1%と圧倒的に多くなっています(表)。

一現役時代の女性の賃金が低いからです。これはシエンダーの問題と絡んでいきます。

こう指摘するのは、全日本年金者組合女性部長の中川滋子さんです。

女性たちは結婚、妊娠、出産、子育てのたびに働き方の選択を迫られます。男女雇用機会均等法により男女差別が禁止されました。しかし、総合職と一般職が設けられ、女性は長時間労働・転勤無制限の総合職の

中川さんは「日本の資本

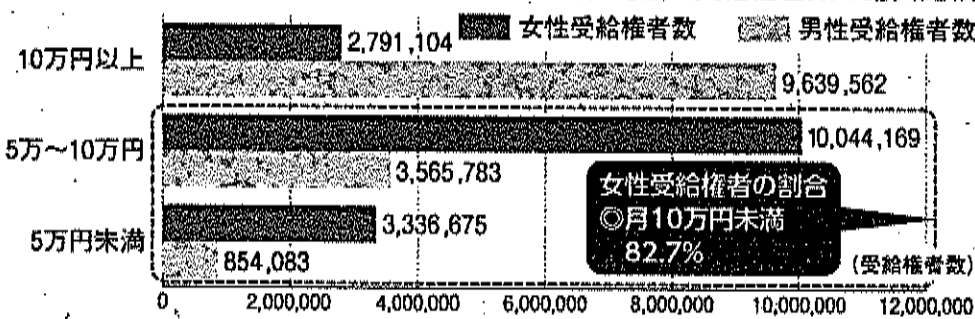
賃金格差が跳ね返る

■2021年度 国民年金のみの「老齢年金」(25年未満) 受給月額別人数

年金月額	人数(千人)	年金月額(円)			
		男性	割合(%)	女性	割合(%)
2万円未満	200	39	11.3	161	46.7
2万~4万円	132	27	7.8	105	30.4
4万円以上	13	2	0.6	11	3.2
合計	345	69	20.0	276	80.0
平均年金月額	19,046	19,288	—	18,986	—

厚生労働省「2021年度厚生年金保険・国民年金事業の概況」に基づき作成

グラフ ■2021年度 厚生年金(老齢年金)の受給月額と受給権者数の男女比較



厚生労働省「2021年度厚生年金保険・国民年金事業の概況」に基づき作成

主義は女性の差別とともに始まった」と強調します。明治時代、女工を低賃金で長時間働かせるとともに、男尊女卑の家長制度が引き継がれて男女の賃金格差が出現。新憲法のもとで形

だけは男女平等になりましたが、格差がずっと続いているといえます。たださえ低い年金は、第2次安倍政権からの11年間で7.3%減額されています。年金者組合女性部は2

月、1年がかりで低年金に悩む女性の声を集めた冊子『今、ここにある窮状』を発行。そこには「離婚し、実母と3人の子どものために働き続けた。生活費は切り詰め暮らしている」「82歳でパートをしている。コロナ禍でパート代が減っている」などつづらられています。

実態知らせたい

冊子を求める人が各地にいと語る中川さん。他方「結婚して夫の庇護(ひご)のもとにいたんだから年金が少なくなってもしょうがない」という声もあると言います。「シエンダー平等の問題と、政府による社会保障の責任投げ捨て、若者と高齢者との分断政策のからくりが分かり、自己責任の問題ではないことに気づいてもらえるよう、もっと女性の低年金問題の実態を全国に知らせたい」

(つづ)